

第254回
これは正義の戦いか
~ジャーナリストたちのベトナム戦争~

放送日

(本放送) 平成18年5月31日(水)
22:00~22:43 総合 全国

(再放送) 平成18年6月5日(月)
17:15~17:43 BS2

平成18年6月6日(火)
16:05~16:48 総合 全国

平成18年6月9日(金)
0:00~0:43(※木曜深夜)総合 近畿地方のみ

平成18年6月9日(金)
1:10~1:53(※木曜深夜)総合 全国(近畿のぞく)

※再放送の予定は変更されることがあります。当日の新聞などでご確認ください。

出演者

松平 定知(まつだいら・さだとも) アナウンサー
石川 文洋(いしかわ・ぶんよう) さん(報道写真家)

番組概要

- ♪その時: 1973年3月29日
- ♪出来事: アメリカ軍がベトナムから完全撤退する

ベトナム戦争では、当初アメリカのジャーナリストたちは政府が掲げた戦争の大義を信じていた。
しかし、戦場でその実態を目の当たりにすると、次第に軍と政府に疑念を抱いていった。
CBSニュースキャスターのウォルター・クロンカイトそしてニューヨークタイムズ記者のデイビッド・ハルバースタムやUPI記者のニール・シーハンらは、報道を通してアメリカ政府を追いつめていく。そして政府と報道の対決は、ついに連邦最高裁に持ち込まれた。ジャーナリストたちの葛藤と挑戦を通してベトナム戦争を描く。

番組の内容について

- ♪「民族解放戦線」の名称について
日本では、「解放民族戦線」あるいは「解放戦線」という呼び方も多く使われているが、今回の番組の取材協力をいただいた筑波大学の松岡完教授の意見を参考に、その著書の記述にある”National Liberation Front”的語として「民族解放戦線」を使用した。

- ♪ベトナム共和国=南ベトナムについて
「ベトナム国」が1954年7月に「南ベトナム」になり、55年10月に「ベトナム共和国」になったため、厳密には1954年7月～1955年10月の間は「ベトナム共和国=南ベトナム」ではないが、構造をわかりやすく伝えるため、その説明を省いた。

- ♪戦死者数について
『ベトナム戦争の記録』(大月書店)の表を参照。

ベトナム戦争全体の死者数については、最小値を取り120万人以上とした。

◆戦争支持率について

『WAR, PRESIDENTS AND PUBLIC OPINION』John E. Mueller著に掲載されているベトナム戦争への支持率の推移グラフを参照。
番組で紹介したのは

65年	賛成 65%	反対 21%
66年	48%	35%
69年	32%	58%

◆アメリカ政府が派遣した500人の軍人について

派遣された100人の軍事顧問団と400人の陸軍特殊部隊の合計として表現。

◆「ベトナムは夢の国である…」というハルバースタムの言葉について

『THE MAKING OF A QUAGMIRE』David Halberstam著を参考し意訳。
日本語訳本は、『ベトナムの泥沼から』泉鴻之・林雄一郎訳(みすず書房)
番組で紹介した言葉は、

「ベトナムは新聞記者の夢の国である。劇的でわくわくさせるストーリー。すべてがある。」

◆南ベトナム支援の理由を述べたジョンソン大統領の演説について
番組で紹介した箇所は、

「アジアの非共産主義国家の多くは、共産主義の勢いと野望の拡大を自分たちの力でくいとめることはできません。したがって我々の力こそが最後の盾なのです。」

◆ハルバースタムの最初の記事について

ニューヨークタイムズ紙の記事文面を意訳。

番組で紹介した箇所は、

「アメリカ軍の指導による南ベトナム兵の訓練が効果をあげている」

◆アメリカの勝利を伝えるテレビニュースについて

NBCのニュース映像よりナレーション内容を意訳。

番組で紹介した箇所は、

「敵を打ちのめしました。敵は戦わずして降伏したのです。」

◆クロンカイトのリポートについて

CBSのニュース映像より内容を意訳。

番組で紹介した箇所は、

「これまでの戦争とベトナム戦争の違いは、我々が勝利と同時に平和を求めていることです。戦争の行方は共産主義者の選択次第なのです。」

◆誤報だったシーハンのエピソードについて

『メディアの戦場』ハリソン・ソールズベリー著 小川水路訳(集英社)

『ONCE UPON A DISTANT WAR』William Prochnau著

などに掲載されているエピソード。

本では、戦死者は200人となっているが、実際の記事は300人。

◆カムラン湾を見たクロンカイトのエピソードについて

『A REPORTER'S LIFE』Walter Cronkite著に掲載されているエピソード。

日本語訳本は『クロンカイトの世界』浅野輔訳(TBSブリタニカ)

◆ヴァン中佐の言葉について

『A BRIGHT SHINING LIE』Neil Sheehan著を参照し、内容を意訳。

日本語訳本は、『輝ける嘘』菊谷匡祐訳(集英社)

番組で紹介した内容は、

「南ベトナム軍は敵に逃げ道を与えてから攻撃している。私たちが助けている南ベトナム兵には本気で戦う気はないんだ。」

△軍事情勢は悪化しているというハルバースタムの記事について

ニューヨークタイムズの記事を意訳。

番組で紹介した箇所(ナレーション)は、

「死命を決するメコンデルタにおける南ベトナムの軍事情勢は、昨年来、悪化している。」

△祖国の裏切り者と言ったジョンソンの発言について

『The Powers That Be』David Halberstam著を参照し意訳。

日本語訳本は『メディアの権力』筑紫哲也・東郷茂彦・斎田一路訳(朝日文庫)

番組で紹介した箇所は、

「ハルバースタムやシーハンのような青二才のまねはするな。彼らは祖国の裏切り者だ。」

△大物記者にハルバースタムを否定する記事を書かせ編集部が動搖したエピソードについて

『A BRIGHT SHINING LIE』Neil Sheehan著

《日本語訳本は、『輝ける嘘』菊谷匡祐訳(集英社)》

『THE MAKING OF A QUAGMIRE』David Halberstam著

《日本語訳本は、『ベトナムの泥沼から』泉鴻之・林雄一郎訳(みすず書房)》

などに掲載されているエピソード。

△ノースウェスタン大学の調査について

『メディアは戦争にどうかかわってきたか』木下和寛著(朝日選書)を参照。

△村を焼き討ちするリポートについて

65年8月5日のCBSニュースより、ナレーションを意訳。

番組で紹介した箇所は、

「この女性や老人たちは8月のこの日の出来事を決して忘れることはないだろう
村人からの信頼を得るには大統領が約束したよりも多くの努力が必要です」

△米国民やジョンソン大統領からの抗議の電話のエピソードについて

『The Powers That Be』David Halberstam著に掲載されているエピソード。

日本語訳本は『メディアの権力』筑紫哲也・東郷茂彦・斎田一路訳(朝日文庫)

番組で紹介したジョンソン大統領の言葉は、

「君の部下たちは昨日アメリカの国旗に泥をぬってくれた」

△戦争に疑問を持ったというシーハンの記事について

66年10月9日のニューヨークタイムズマガジンの記事を意訳。

番組で紹介した箇所は、

「我々は勝利しベトナムはよくなると私は信じていた しかし今、爆撃の被害を被っている農民たちを見てアメリカが自分たちの目的のためだけに、人々を苦しませ傷つけていいものなのか 疑問を持っている」

△スタジオで紹介した写真について

左上:政府軍に解放戦線の偽情報を流したとして脅される農夫 Horst Fass
(1964年)

左下:米軍の攻撃を逃れて川を渡る2組の親子 沢田教一(1965年)

真中:吹き飛んだ解放戦線兵士の体を集めめる米兵 石川文洋(1967年)

右上:政府軍に捕らえられた解放戦線の容疑者 石川文洋(1966年)

右下:銃弾飛び交う中ヘリコプターで負傷した海兵隊員を救出 Larry Burrows (1964年)

▲テト攻勢の日付について

1月末、1月30日など様々な表記があるが、今回の番組の取材協力をいただいた筑波大学の松岡 完 教授の意見を参考に、その著書の記述にある1月31日とした。

▲テト攻勢でサイゴンを攻めた軍の数(4000人)について

ドン・オーバードーファー著『テト攻勢』(草思社)の記述を参照した。

「11個大隊(およそ4000人)が首都および周辺の人口密集部に投入された」

▲テト攻勢でのジョンソンの演説について

68年2月2日に行われた記者会見での発言を意訳(LBJ Libraryの資料)

番組で紹介した箇所は、

「敵の攻撃は完全なる失敗に終わった」

▲戦争の実態を伝えたとしてVTR中に紹介した写真について

1枚目=ナパーム弾から逃げる少女(AP/WWP)

2枚目=ソンミ村虐殺事件の重なり合う村人の死体(Getty Images)

3枚目=ソンミ村虐殺事件のおびえる村人たち(Getty Images)

▲停戦を呼びかけたクロンカイトのリポートについて

68年2月27日のCBSの番組より意訳。

番組で紹介した箇所は、

「この状況から抜け出すためには勝利者としての道を捨てるしかありません 民主主義を守る努力をしてきた名誉を胸にしまい、停戦交渉を始めることが唯一の方法だと 私は確信するに至りました。」

▲「初めての敗北を決める大統領になりたくない」というニクソンの発言について
ケネディーとジョンソン政権下で国務次官を勤めたジョージ・ボールが、1985年に下院で行われた公聴会の席で、「ジョンソン、ニクソン両大統領ともに『私は戦争に敗北した、アメリカ初の大統領になりたくない』と言ったのを聞いた」と証言している。

▲ペンタゴンペーパーズを巡る動きやシーハンの言葉について

『メディアの戦場』ハリソン・ソールズベリー著 小川水路訳(集英社)

に掲載されているエピソードを元に紹介。

番組で紹介したシーハンの言葉は、

「この文書はジョンソンのものでもニクソンのものでもない 血を流して代償を支払ったアメリカ国民とインドシナの人々のものである」

▲ペンタゴンペーパーズが明かしたトンキン湾事件や北爆について

『THE PENTAGON PAPERS』

『ベトナム秘密報告』ニューヨーク・タイムス編 杉辺利英訳(サイマル出版会)などを参照。

▲連邦最高裁の判決について

『THE PENTAGON PAPERS』

『ベトナム秘密報告』ニューヨーク・タイムス編 杉辺利英訳(サイマル出版会)を参照し、意訳。

番組で紹介したのは、判事の意見書
 「報道機関は政府に奉仕するのではなく、国民に奉仕するものである」

△ニクソンの終戦宣言について

73年3月29日のNBCニュースより意訳。

番組で紹介した箇所は、

「アメリカ史上最長の戦争を終わらせました。これからは平和を保っていかねばなりません。」

△メディアに関するジョンソンの発言について

68年4月1日の全米放送人会議でのジョンソン大統領の発言を意訳。

番組で紹介した箇所は、

「この国がうまくいかどうかは、真実を広めるメディアにかかっています。

その真実に基づいて民主主義の決定はなされるのです。

アメリカの報道機関は、真実を知らせる自由と誠実さ、そして責任を決して妥協することなく、保たなくてはならないのです。」

△エンディングでのクロンカイトの言葉について

『A REPORTER'S LIFE』Walter Cronkite著を参考し意訳。

日本語訳本は『クロンカイトの世界』浅野輔訳(TBSブリタニカ)

番組で紹介した箇所は、

「権威を恐れることなく、自由に聞き、学び、議論せよ」

△エンディングでのシーハンの言葉について

湾岸戦争の際に行われた本人へのインタビューより内容を意訳。

番組で紹介した箇所は、

「国民が政府の政策を支持すべきかどうか迷っている時 政府はその目撃者であるジャーナリストを排除したがる。だからこそ私たちジャーナリストは、勇気を持ち真実を追究し、戦い続けなくてはならない。いつも成功するとは限らないが、報道なしには成功もないのだ。」

参考文献

※絶版となったものもあります。出版社などにご確認下さい。

・『ベトナムの泥沼から』

　　ディビッド・ハルバースタム著 泉鴻之・林雄一郎訳(みすず書房)

・『ベスト&ブライテスト』

　　ディビッド・ハルバースタム著 浅野輔訳(朝日文庫)

・『メディアの権力』

　　ディビッド・ハルバースタム著

　　筑紫哲也・東郷茂彦・斎田一路訳(朝日文庫)

・『静かなる戦争』

　　ディビッド・ハルバースタム著

　　小倉慶郎・三島篤志・田中均・佳元一洋・柴武行訳(PHP)

・『ベトナム戦争の内幕』

　　ニール・シーハン、ウィルフレッド・バー・チェット著

　　毎日新聞社外信部訳(毎日新聞社)

・『輝ける嘘』

　　ニール・シーハン著 菊谷匡祐訳(集英社)

・『クロンカイトの世界』

　　ウォルター・クロンカイト著 浅野輔訳(TBSブリタニカ)

・『ベトナム秘密報告』

- ニューヨーク・タイムズ編 杉辺利英訳(サイマル出版会)
・『メディアの戦場』
　　ハリソン・ソールズベリー著 小川水路訳(集英社)
・『戦争報道の内幕 隠された真実』
　　フィリップ・ナイトリー著 芳地昌三訳(中公文庫)
・『戦争とテレビ』
　　ブルース・カミングス著 渡辺将人訳(みすず書房)
・『メディアコントロール 日本の戦争報道』
　　前坂俊之著(旬報社)
・『メディアは戦争にどうかかわってきたか』
　　木下和寛著(朝日選書)
・『ニューヨークタイムズ あるメディアの権力と神話』
　　S・エルフエンバイン著 赤間聰・服部高宏訳(木鐸社)
・『戦争報道』
　　武田徹著(ちくま新書)
・『戦争報道とアメリカ』
　　柴山哲也著(PHP新書)
・『新聞集成 ベトナム戦争』
　　吉沢南監修(大空社)
・『ベトナム戦争の記録』
　　『ベトナム戦争の記録』編集委員会編(大月書店)
・『ベトナム戦争』
　　松岡完著(中公新書)
・『ベトナム症候群』
　　松岡完著 中公新書
・『歴史としてのベトナム戦争』
　　古田元夫著(大月書店)
・マクナマラ回顧録 ベトナムの悲劇と教訓
　　ロバート・S・マクナマラ著 仲晃訳(共同通信社)
・『果てしなき論争』
　　ロバート・マクナマラ著 仲晃訳(共同通信社)
・『ベトナム 戦争と平和』
　　石川文洋著(岩波新書)
・『石川文洋写真集「戦争と平和」第3巻 ベトナム報道35年』
　　石川文洋著(株式会社ルック)
・『ハノイは燃えている』
　　ハリソン・E・ソールズベリー著 朝日新聞外報部訳(朝日新聞社)
・『ゾンミ my lay 4』
　　セイムア・ハーシュ著 小田実訳(草思社)
・『ベトナムの少女 世界で最も有名な戦争写真が導いた運命』
　　デニス・チョン著 押田由起訳(文春文庫)
・『The "Uncensored War"』
　　Daniel C. Hallin著(University of California Press)
・『ONCE UPON A DISTANT WAR』
　　William Prochnau著(A Division of Random House)
・『Reporting Vietnam』
　　William M. Hammond著(University Press of Kansas)
・『THE MAKING OF A QUAGMIRE』
　　David Halberstam著(McGraw-Hill)
・『The Best and the Brightest』
　　David Halberstam著(BALLANTINE BOOKS)
・『The Powers That Be』
　　David Halberstam著(University of Illinois Press)

- ・『A BRIGHT SHINING LIE』
Neil Sheehan著(A Division of Random House)
- ・『A REPORTER'S LIFE』
Walter Cronkite著(BALLANTINE BOOKS)
- ・『THE PENTAGON PAPERS』
THE NEW YORK TIMES
- ・『MY LAI 4』
Seymour M. Hersh著(A Division of Random House)